

解剖生理学 I	看護学科		1年前期				
	2単位		講義	30時間			
[教員]：佐々 敏							
[関連する資格・履修制限等]：							
授業内容	看護実践に必要な基本的知識である人体の構造と機能について学ぶ。本科目では、消化器系、泌尿器系、呼吸器系および免疫系の各系統における構造と人体での位置、他の臓器とのつながり、主な器官のメカニズムと調整機能などについて理解する。						
授業方法	毎回のテーマにおける重要な医学用語を説明し、それに関する内容を理解するために教科書から必要な言葉や図を探し、個々のサブノートを作成する。						
到達目標	1. [知識・理解] 看護師に必要な基礎知識を理解する。 (◎) 2. [思考・判断・表現] コミュニケーション能力を養う。 (△) 3. [技能] 課題に対する現状や問題点などの指摘や説明ができる。 (△) 4. [関心・意欲・態度] 自分の理解を高めるために、独自のサブノートを作成する。 (○)						
観点別評価			知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	70	-	-	-	70	
	レポート	-	5	5	5	15	
	自己評価	-	5	-	-	5	
	受講態度	-	-	-	10	10	
	合 計	70	10	5	15	100	
成績評価と割合	筆記試験(定期試験、豆テスト) 70%、レポート 15%、学習成果の自己評価 5%、受講態度 10% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『解剖生理学』メディカ出版						
参考書・教材	必要な資料は配布します。						
					内容		
実施回	授業内容・目標						
1	看護の土台となる解剖生理学 授業の進め方と準備・課題について [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
2	消化器系 (1) 口腔、食道、胃、小腸、大腸の構造と機能 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
3	消化器系 (2) 肝臓、胆嚢、脾臓の構造と機能 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
4	泌尿器系 (1) 腎臓の構造と機能 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
5	泌尿器系 (2) 尿管、膀胱、尿道の構造と機能 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
6	消化器系と泌尿器系の整理 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
7	呼吸器系の構造と機能 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
8	呼吸のプロセス [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
9	呼吸の調節 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
10	女性生殖器の構造と機能 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
11	男性生殖器の構造と機能 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
12	血液とは [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
13	免疫系のしくみ [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
14	免疫系と疾患について [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
15	解剖生理 I のまとめ [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
時間外での学習	自分流のオリジナルなサブノートを作成しましょう。 質問等があれば、研究室へどうぞ。						
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は看護師の基礎となる教科を楽しく学べるように努力しますので、君たちも頑張りましょう。 オフィスアワーは毎週月曜日の16：20から17：30です。						

解剖生理学Ⅱ	看護学科		1年前期			
	2単位		講義	30時間		
[教員]：佐々 敏・曾根 孝仁						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	看護実践に必要な基本的知識である人体の構造と機能について学ぶ。本科目では、循環器系、内分泌系、筋骨格系、神経系の各系統における構造と人体での位置、他の臓器とのつながり、主な器官のメカニズムと調整機能などについて理解する。					
授業方法	毎回のテーマにおける重要な医学用語を説明し、それに関する内容を理解するために教科書から必要なことばを探し、個々のサブノートを作成する。					
到達目標	1. [知識・理解] 看護師に必要な基礎知識を理解する。 (◎) 2. [思考・判断・表現] コミュニケーション能力を養う。 (△) 3. [技能] クラス編成（チーム）により、力を合わせることの意義を理解する。 (△) 4. [関心・意欲・態度] 自分の理解を高めるために、独自のサブノートを作成する。 (○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	70	-	-	-	70
	レポート	-	5	5	5	15
	自己評価	-	5	-	-	5
	受講態度	-	-	-	10	10
	合 計	70	10	5	15	100
成績評価と割合	筆記試験(定期試験、豆テスト) 70%、レポート 15%、学習成果の自己評価 5%、受講態度 10% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『解剖生理学』メディカ出版					
参考書・教材	必要な資料は配布します。					
					内容	
実施回	授業内容・目標					
1(曾根)	全身の循環器系：動脈・静脈・リンパ系と体循環・肺循環 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
2(曾根)	心臓の構造と機能 1：心電図、心音、脈波との関連 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
3(曾根)	心臓の構造と機能 2：心電図の基礎と刺激伝導系 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
4(曾根)	循環器系：目で見る心臓・肺循環検査法 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
5(曾根)	内分泌系とホルモン [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
6(曾根)	内分泌系：脳、甲状腺、上皮小体 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
7(曾根)	内分泌系：膵臓（糖尿病）、副腎、性腺 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
8(佐々)	骨格系 1：骨の構造と機能・頭蓋、体幹の骨格 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
9(佐々)	骨格系 2：体肢の骨格・関節の構造と種類 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
10(佐々)	筋の種類と機能 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
11(佐々)	骨格筋の解剖生理 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
12(佐々)	神経系の構造と機能 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
13(佐々)	中枢神経系と末梢神経系 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
14(佐々)	感覚系 1：視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
15(佐々)	感覚系 2：体性感覚と内臓感覚 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
時間外での学習	自分流のオリジナルなサブノートを作成しましょう。 質問等があれば、研究室へどうぞ。					
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は看護師の基礎となる教科を楽しく学べるように努力しますので、君たちも頑張りましょう。 オフィスアワーは毎週月曜日の16：20から17：30です。					

人体と栄養	看護学科		1年前期																																												
	1単位		講義	15時間																																											
[教員]：岩崎 文江																																															
[関連する資格・履修制限等]：																																															
授業内容	人間にとっての栄養の意義及び疾病治療との関連について、また、食事療法の基本及び栄養治療（栄養療法）について講義します。栄養学の基本的知識として、栄養素とその栄養価、食物の消化吸収などを学び、ライフステージ別の生理的特徴や栄養代謝の特徴を理解します。また、患者の特性に応じた栄養補給法、栄養教育法について理解を深めます。																																														
授業方法	講義を中心として、グループワークを取り入れて授業を進めます。																																														
到達目標	1. [知識・理解] 栄養素の種類と働きが理解できる (○) 2. [知識・理解] 栄養素の体内代謝のメカニズムと必要量が理解できる (○) 3. [知識・理解] 栄養アセスメントの意義と方法が理解できる (○) 4. [知識・理解] ライフステージ別の生理的特徴や栄養代謝の特徴が理解できる (○) 5. [知識・理解] 疾患別の食事療法の意義とその内容が理解できる (○) 6. [関心・意欲・態度] 自己の考えをまとめ、レポートに記述できる (△)																																														
観点別評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th><th>知識・理解</th><th>思考・判断・表現</th><th>技能</th><th>関心・意欲・態度</th><th>合計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>筆記試験</td><td>90</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>90</td></tr> <tr> <td>レポート</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>10</td><td>10</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>90</td><td>-</td><td>-</td><td>10</td><td>100</td></tr> </tbody> </table>						知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計	筆記試験	90	-	-	-	90	レポート	-	-	-	10	10																			合 計	90	-	-	10	100
	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計																																										
筆記試験	90	-	-	-	90																																										
レポート	-	-	-	10	10																																										
合 計	90	-	-	10	100																																										
成績評価と割合	筆記試験 90%、レポート 10% の合計 100% で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。																																														
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『疾病の成り立ち(4)：臨床栄養学』メディカ出版																																														
参考書・教材	必要な資料は配布します。																																														
内容																																															
実施回	授業内容・目標																																														
1	栄養素の種類と働き [準備・課題]学習内容を復習する(1h)																																														
2	日本人の食事摂取基準 [準備・課題]学習内容を復習する(1h)																																														
3	栄養アセスメント [準備・課題]学習内容を復習する(1h)																																														
4	運動と栄養 [準備・課題]学習内容を復習する(1h)																																														
5	人生各期における健康生活と栄養 [準備・課題]学習内容を復習する(1h)																																														
6	疾患別栄養療法①疾患別 [準備・課題]学習内容を復習する(1h)																																														
7	疾患別栄養療法②嚥下生涯 [準備・課題]学習内容を復習する(1h)																																														
8	疾患別栄養療法③グループ討議 [準備・課題]学習内容を復習する(1h)																																														
時間外での学習	予習、復習に努めてください。																																														
受講学生へのメッセージ	講義内容のポイントを理解し、栄養への関心を深めてください。 オフィスアワー：質問・相談などあれば、時間終了後にきてください。																																														

病理学	看護学科		1年前期				
	1単位		講義	15時間			
[教員]：佐々 敏							
[関連する資格・履修制限等]：							
授業内容	病理学とは疾病の成り立ちを理解する学問です。臨床の現場では、病気の最終診断は病理組織診断で決定される。この授業では臨床病態を理解する上での基礎になる病理総論に重点をおき、正常の解剖生理から逸脱した病態を細胞・組織の側面から理解できることを目指す。						
授業方法	毎回のテーマにおける重要な医学用語を説明し、それに関する内容を理解するために教科書から必要なことばを探し、個々のサブノートを作成する。						
到達目標	1. [知識・理解] 看護師に必要な基礎知識を理解する。 (◎) 2. [思考・判断・表現] コミュニケーション能力を養う。 (△) 3. [技能] クラス編成（チーム）により、力を合わせることの意義を理解する。 (△) 4. [関心・意欲・態度] 自分の理解を高めるために、独自のサブノートを作成する。 (○)						
観点別評価			知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験		70	-	-	-	70
	レポート		-	5	5	5	15
	自己評価		-	5	-	-	5
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計		70	10	5	15	100
成績評価と割合	筆記試験(定期試験、豆テスト) 70%、レポート 15%、学習成果の自己評価 5%、受講態度 10% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『病態生理学』メディカ出版						
参考書・教材	必要な資料は配布します。						
内容					授業内容・目標		
実施回							
1	病理学とは [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
2	腫瘍と過形成 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
3	体液の異常・血行障害 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
4	炎症と修復・免疫および免疫疾患 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
5	感染の成立とその修復・感染に関する用語 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
6	細胞の障害と適応・代謝異常 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
7	先天異常 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
8	病理総論のまとめ [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)						
時間外での学習	自分流のオリジナルなサブノートを作成しましょう。 質問等があれば、研究室へどうぞ。						
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は長年の医療経験を活かして 看護師の基礎となる教科を楽しく学べるように努力します。お互いに頑張りましょう。 オフィスアワーは毎週月曜日の16：20から17：30です。						

病態学Ⅰ	看護学科		1年後期				
	2単位		講義	30時間			
[教員]：佐々 敏・曾根 孝仁・長末 正己・進藤 丈							
[関連する資格・履修制限等]：							
授業内容	臨床において医学的対応が必要となる主要な疾患を系統機能別に取り上げ、それぞれの病態を学び、基本的な診断・治療について学ぶ。						
授業方法	パワーポイント、参考資料、ホワイトボードを用いて授業を行う。また、動画などの視覚教材なども必要に応じて使用する。看護に必要な知識をより具体的に理解できるように、例をあげながら授業をすすめる。						
到達目標	1. [知識・理解] 消化器機能障害の病態とその診断・治療について説明できる。 (◎) 2. [知識・理解] 腎・泌尿器機能障害の病態とその診断・治療法について説明できる。 (◎) 3. [知識・理解] 呼吸器機能障害の病態とその診断・治療法について説明できる。 (◎) 4. [知識・理解] 内分泌・代謝機能障害の病態とその診断・治療について説明できる。 (◎)						
観点別評価			知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験		100	-	-	-	100
	合 計		100	-	-	-	100
成績評価と割合	筆記試験 100% で評価します。						
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『健康の回復と看護(7)：疾病と治療』メディカ出版 デジタルナーシング・グラフィカ『疾病の成り立ち(1)：病態生理学』メディカ出版						
参考書・教材	必要な資料は配布します。						
					内容		
実施回					授業内容・目標		
(佐々)1	肝疾患の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
(佐々)2	胆道系疾患の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
(佐々)3	脾疾患の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
(佐々)4	食道・胃疾患の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
(佐々)5	小腸・大腸疾患の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
(長末)1	腎・泌尿器系機能障害と検査 [課題]学習した内容の復習(1h)						
(長末)2	腎炎・腎不全の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
(長末)3	泌尿器感染症、通過障害、神経障害の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
(進藤)1	呼吸器の構造と機能、呼吸器検査 (PEF) など、酸素療法とCO2ナルコーシス、呼吸不全の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
(進藤)2	閉塞性換気障害の病態と治療、拘束性換気障害の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
(進藤)3	呼吸器感染症の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
(進藤)4	肺腫瘍の病態と治療、緩和、ニコチン依存症 [課題]学習した内容の復習(1h)						
(曾根)1	視床下部、下垂体障害の病態と治療、甲状腺、副甲状腺障害の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
(曾根)2	副腎髓質、副腎皮質障害の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
(曾根)3	糖・脂質・尿酸代謝障害の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
時間外での学習	予習・復習に努めること。						
受講学生へのメッセージ	オフィスアワー：質問・相談などあれば講義終了後にきてください。						

病態学Ⅱ	看護学科		1年後期				
	2単位		講義	30時間			
[教員]：佐々 敏・曾根 孝仁・鬼頭 晃							
[関連する資格・履修制限等]：							
授業内容	臨床において医学的対応が必要となる主要な疾患を系統機能別に取り上げ、それぞれの病態を学び、基本的な診断・治療法について学ぶ。						
授業方法	パワーポイント、参考資料、ホワイトボードを用いて授業を行う。また、動画などの視覚教材なども必要に応じて使用する。看護に必要な知識をより具体的に理解できるように、例をあげながら授業を進める。						
到達目標	1. [知識・理解] 脳神経系の障害の病態とその診断・治療法について説明できる。 (◎) 2. [知識・理解] 循環器機能障害の病態とその診断・治療法について説明できる。 (◎) 3. [知識・理解] 造血器疾患の病態とその診断・治療法について説明できる。 (◎) 4. [知識・理解] 運動機能障害の病態とその診断・治療法について説明できる。 (◎)						
観点別評価			知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験		100	-	-	-	100
	合 計		100	-	-	-	100
成績評価と割合	筆記試験 100% で評価します。						
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ 7巻、9巻、10巻、11巻、13巻メディカ出版						
参考書・教材	パワーポイント、配布資料						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1(鬼頭)	脳・神経の構造と機能障害、脳の局所症状 [課題]学習内容を復習する。 (3 h)						
2(鬼頭)	脳血管障害の病態と治療 [課題]学習内容を復習する。 (3 h)						
3(鬼頭)	頭部外傷・脳腫瘍・感染症の病態と治療 運動制御の障害と治療 [課題]学習内容を復習する。 (3 h)						
4(曾根)	高血圧及び末梢血管疾患の病態・発症機序・治療 [課題]解剖生理学Ⅱの全身循環を事前に復習してくること。 (3 h)						
5(曾根)	心臓弁膜症の病態・発症機序・治療 [課題]解剖生理学Ⅱの心音、心雜音、脈波につき事前に復習してくること。 (3 h)						
6(曾根)	心筋疾患・心膜疾患、その他の病態・発症機序・治療 [課題]前2回の講義内容を含めて学習内容を復習する。 (3 h)						
7(曾根)	不整脈の種類・病態・発症機序・治療 [課題]解剖生理学Ⅱの心電図を事前に復習してくること。 (3 h)						
8(曾根)	虚血性心臓病の病態・治療 [課題]あらかじめ冠状動脈につき予習してくること。 (3 h)						
9(曾根)	心不全の病態と治療 [課題]あらかじめその臨床像をイメージしてくること。 (3 h)						
10(佐々)	血液細胞のもつ諸機能の障害 [課題]学習内容を復習する。 (3 h)						
11(佐々)	造血機能障害 [課題]学習内容を復習する。 (3 h)						
12(佐々)	免疫機能障害 [課題]学習内容を復習する。 (3 h)						
13(佐々)	骨格系の運動機能とその障害 [課題]学習内容を復習する。 (3 h)						
14(佐々)	脊椎の運動機能とその障害 [課題]学習内容を復習する。 (3 h)						
15(佐々)	関節・筋肉の運動機能とその障害 [課題]学習内容を復習する。 (3 h)						
時間外での学習	予習・復習に努めてください。						
受講学生へのメッセージ	将来の仕事（臨床）につながる第一歩です。頑張りましょう。 オフィスアワー：質問・相談などあれば、講義終了後にきてください。						

病態学III	看護学科		1年後期				
	2単位		講義	30時間			
[教員]：佐々 敏・富田 顕旨							
[関連する資格・履修制限等]：							
授業内容	臨床において医学的対応が必要となる主要な疾患を系統機能別に取り上げ、それぞれの病態を学び、基本的な診断・治療について学ぶ。						
授業方法	パワーポイント、参考資料、ホワイトボードを用いて授業を行う。また、動画などの視覚教材なども必要に応じて使用する。看護に必要な知識をより具体的に理解できるように、例をあげながら授業を進める。						
到達目標	1. [知識・理解] 主な精神科疾患の病態と診断・治療法について理解する。 (◎) 2. [知識・理解] 主な眼科・耳鼻科疾患の病態と診断・治療法について理解する。 (◎) 3. [知識・理解] 主な皮膚科疾患の病態と診断・治療法について理解する。 (◎)						
観点別評価			知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験		100	-	-	-	100
	合 計		100	-	-	-	100
成績評価と割合	筆記試験 100% で評価します。						
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版 デジタルナーシング・グラフィカ『精神看護学② 精神障害と看護の実践』 メディカ出版 デジタルナーシング・グラフィカ『疾病の成り立ち(1) : 病態生理学』メディカ出版 デジタルナーシング・グラフィカ『健康の回復と看護(7) : 疾病と治療』メディカ出版						
参考書・教材	必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1(富田)	精神疾患と治療の概念（精神医学とは、精神障害とは、精神衛生法について） [課題]学習した内容の復習(1h)						
2(富田)	統合失調症の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
3(富田)	気分障害（躁うつ病）の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
4(富田)	神経症、睡眠障害の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
5(富田)	認知症の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
6(富田)	器質性精神障害、てんかんの病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
7(富田)	薬物依存、アルコール依存症の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
8(佐々)	主な眼科疾患の症状・検査と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
9(佐々)	白内障、緑内障の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
10(佐々)	主な耳鼻科疾患の症状・検査と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
11(佐々)	聴覚・平衡覚の障害と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
12(佐々)	皮膚の構造と機能、検査と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
13(佐々)	表在性皮膚疾患の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
14(佐々)	熱傷、褥そう、膠原病の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
15(佐々)	感染症、腫瘍及び色素異常の病態と治療 [課題]学習した内容の復習(1h)						
時間外での学習	予習復習に努めること。						
受講学生へのメッセージ	オフィスアワー：質問、相談などあれば講義終了後にきてください。						

微生物学	看護学科		1年前期			
	1単位		講義	15時間		
[教員] : 佐々 敏						
[関連する資格・履修制限等] :						
授業内容	微生物学の基礎を学び、病原体の特徴と疾患および治療を理解し、免疫現象が疾患とどのように関わっているかを理解する。さらに、病原体から身を守る予防について学ぶ。					
授業方法	毎回のテーマにおける重要な医学用語を説明し、それに関する内容を理解するために教科書から必要な言葉や図を探し、個々のサブノートを作成する。					
到達目標	1. [知識・理解] 看護師に必要な基礎知識を理解する。 (◎) 2. [思考・判断・表現] コミュニケーション能力を養う。 (△) 3. [技能] クラス編成 (チーム) により、力を合わせることの意義を理解する。 (△) 4. [関心・意欲・態度] 自分の理解を高めるために、独自のサブノートを作成する。 (○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	70	-	-	-	70
	レポート	-	5	5	5	15
	自己評価	-	5	-	-	5
	受講態度	-	-	-	10	10
	合 計	70	10	5	15	100
成績評価と割合	筆記試験(定期試験、豆テスト) 70%、レポート 15%、学習成果の自己評価 5%、受講態度 10% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『臨床微生物・医動物』メディカ出版					
参考書・教材	必要な資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	微生物・医動物とは [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
2	宿主の臓器別にみる感染症と病原体 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
3	宿主の因子が影響する感染症と病原体 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
4	感染症と病原体のまとめ [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
5	感染症の予防と感染防御機構 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
6	感染・発症予防 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
7	感染症の検査・治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
8	感染症と予防・治療のまとめ [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
時間外での学習	自分流のオリジナルなサブノートを作成しましょう。 質問等があれば、研究室へどうぞ。					
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は看護師の基礎となる教科を楽しく学べるように努力しますので、君たちも頑張りましょう。 オフィスアワーは毎週月曜日の16:20から17:30です。					

歯科衛生概論	看護学科	1年後期
1単位		講義 15時間

[教員]：久本 たき子

[関連する資格・履修制限等]：

授業内容	口腔は、生体の中でも多面的な機能を持った器官であり、生命の維持に不可欠な摂食、咀嚼、嚥下機能、会話、発音など優れた感覚器官である。また、口腔は他の体内器官と違い自分で直視でき、確認ができる特徴を持っている。将来看護師となる上でこの口腔器官における歯科疾患と全身との関連性を理解する必要がある。人々の健康を維持し増進するために、歯科疾患の予防方法や口腔機能を学び、口腔の健康状態と全身の健康状態の関連性を学ぶことがねらいである。																																										
授業方法	講義・演習を中心に行い、最終週に口腔ケア技法の相互実習を行う。また、確認テストを随時行う。																																										
到達目標	1. [知識・理解] 歯や口腔の構造を理解し、口腔の機能を学ぶ。 (◎) 2. [知識・理解] 口腔内の疾病や予防方法を述べる。 (◎) 3. [知識・理解] 口腔ケアの目的と方法を述べる。 (◎) 4. [思考・判断・表現] 授業内容について、要点をまとめたレポート作成ができる。 (△) 5. [関心・意欲・態度] 自己の体調管理を行い、主体的に受講できる。 (○)																																										
観点別評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>技能</th> <th>関心・意欲・態度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>筆記試験</td> <td>80</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>レポート作成</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>受講態度</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>80</td> <td>5</td> <td>-</td> <td>15</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計	筆記試験	80	-	-	-	80	レポート作成	-	5	-	-	5	受講態度	-	-	-	15	15													合計	80	5	-	15	100
	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計																																						
筆記試験	80	-	-	-	80																																						
レポート作成	-	5	-	-	5																																						
受講態度	-	-	-	15	15																																						
合計	80	5	-	15	100																																						
成績評価と割合	筆記試験 80%、授業時間内レポート作成 5%、受講態度 15% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、授業実施時間の1/3以上欠席した場合単位を与えません。																																										
テキスト	『口をまもる 生命をまもる 基礎から学ぶ口腔ケア 第2版』学研メディカル秀潤社																																										
参考書・教材	毎回、講義資料としてプリントを配布します。																																										

内容		授業内容・目標
実施回		
1	オリエンテーション・歯と口腔の構造と機能 講義の概要と評価について説明する。 乳歯・永久歯の名称と歯周組織の構造、口腔の構造について講義する。 [準備・課題]乳歯・永久歯の名称と歯周組織の構造についてまとめる。(3h)	
2	歯・口腔疾患に伴う障害の症状、顎・口腔機能障害と発生機序① 口臭・口腔乾燥症・咀嚼・嚥下障害について講義する。 [準備・課題]口臭・口腔乾燥症についてまとめる。(3h)	
3	歯・口腔疾患に伴う障害の症状、顎・口腔機能障害と発生機序② 咀嚼・嚥下機能について演習を行う。 [準備・課題]咀嚼・嚥下機能の演習内容を復習する。(3h)	
4	う蝕の原因・予防：う蝕の原因や予防法（フッ化物）について講義する。 [準備・課題]う蝕の原因や予防法を復習する。(4h)	
5	歯周病の原因・予防：歯周病の原因や予防法について講義する。 [準備・課題]歯周病の原因・予防法を復習する。(4h)	
6	口腔ケアの目的と方法：口腔ケアの目的とその効果や加齢に伴う口腔症状と口腔ケアの方法を講義する。 [準備・課題]加齢に伴う口腔症状についてまとめる。(4h)	
7	口腔ケアの実際：口腔ケアの概要を説明し特に病棟における口腔ケアを実施するための技法について講義し、相互実習を行う。(久本・飯岡) [準備・課題]病棟における口腔ケアの方法についてまとめる。(4h)	
8	義歯安定剤・義歯洗浄剤の使用方法と知覚過敏症のメカニズムについて解説する。(学外講師) また、授業内容についてレポート作成を行う。 [準備・課題]義歯安定剤・洗浄剤の使用方法と知覚過敏症のメカニズムについて復習する。(4h)	
時間外での学習	毎回の授業で重要な事は確認しますので、次週の確認テストの勉強をしっかり行い知識を確実にしてください。	
受講学生へのメッセージ	歯科疾患と全身には深い関係があります。将来、在宅医療や看護業務を行うにあたり、口腔のケアの重要性を理解するように努めてください。 オフィスアワーは、研究室 (G304 : G号館3F) 、毎週火曜日の5時限です。	

薬理学	看護学科	1年後期																																											
	2単位	講義	30時間																																										
[教員]：宇佐美 英績・木村 美智男																																													
[関連する資格・履修制限等]：																																													
授業内容	第1回、第2回は薬理学の総論を解説します。薬がどのように効いているのか、また副作用や相互作用などに気を付けることも併せて学んでいきます。第3回から第15回までは、各論として様々な疾患に対する薬を紹介し、作用の仕組みや使い分け、主な副作用を覚えていきましょう。また、薬の形態、使い方、使用上の注意、保管・管理、医療安全などについても実際の例をもとに考えていきましょう。																																												
授業方法	講義、演習をします。テキスト、パワーポイント、プリント、実物などを用いて説明します。																																												
到達目標	1. [知識・理解] 看護学生として薬物療法の重要性と安全の確保を認識でき、さらに、個々の薬剤に対して、その作用機序、相互作用、副作用などを知識として身に着け、疾患との関連付けが理解できる。(○) 2. [思考・判断・表現] 実際の薬剤を見て、患者に投与することをイメージしながら、手技や技能を身に着け薬物療法の基本を修得できる。(○) 3. [技能] チーム医療における他職種との連携・協働の必要性を理解し、医師や薬剤師と薬物療法において適切な議論ができる基礎知識を修得できる。(○) 4. [関心・意欲・態度] 薬物の有用性と危険性を認識でき、自ら副作用などを察知し、薬剤投与の是非を判断し、医師や薬剤師に報告できる基礎知識を修得できる。(○)																																												
観点別評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th><th>知識・理解</th><th>思考・判断・表現</th><th>技能</th><th>関心・意欲・態度</th><th>合計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>筆記試験</td><td>30</td><td>10</td><td>20</td><td>-</td><td>60</td></tr> <tr> <td>レポート</td><td>-</td><td>5</td><td>10</td><td>5</td><td>20</td></tr> <tr> <td>自己評価</td><td>5</td><td>-</td><td>5</td><td>-</td><td>10</td></tr> <tr> <td>受講態度</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>10</td><td>10</td></tr> <tr> <td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>35</td><td>15</td><td>35</td><td>15</td><td>100</td></tr> </tbody> </table>				知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計	筆記試験	30	10	20	-	60	レポート	-	5	10	5	20	自己評価	5	-	5	-	10	受講態度	-	-	-	10	10							合 計	35	15	35	15	100
	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計																																								
筆記試験	30	10	20	-	60																																								
レポート	-	5	10	5	20																																								
自己評価	5	-	5	-	10																																								
受講態度	-	-	-	10	10																																								
合 計	35	15	35	15	100																																								
成績評価と割合	筆記試験(選択) 60%、レポート 20%、自己評価 10%、受講態度 10% の 合計100% で評価します。																																												
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『疾病の成り立ち(2)：臨床薬理学』メディカ出版																																												
参考書・教材	看護師国家試験過去問題																																												
内容																																													
実施回	授業内容・目標																																												
木村(1)	医薬品総論、分類（毒薬、劇薬、麻薬など）、名前、剤形、管理、開発、作用、薬物動態など [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
木村(2)	薬の有害作用（副作用）、相互作用、依存性、使用上の注意、添付文書、投与方法など [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
木村(3)	生活習慣病に使用する薬 (1) 高血圧、狭心症、心筋梗塞 [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
木村(4)	生活習慣病に使用する薬 (2) 不整脈、心不全、脂質異常症 [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
木村(5)	生活習慣病に使用する薬 (3) 糖尿病 [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
木村(6)	脳・中枢神経系疾患で使用する薬 (1) 抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬、アルツハイマー型認知症治療薬、脳血管障害の治療薬 [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
木村(7)	アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬 [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
木村(8)	消化器系疾患に使用する薬 [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
宇佐美(1)	がん・痛みに使用する薬 [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
宇佐美(2)	感染症に使用する薬 [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
宇佐美(3)	脳・中枢神経系疾患で使用する薬 (2) 向精神病薬 [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
宇佐美(4)	救命救急時に使用する薬 [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
宇佐美(5)	その他の症状に使用する薬 (1) 代謝機能障害、内分泌障害、血液・造血器障害、腎機能障害、運動機能障害 [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
宇佐美(6)	その他の症状に使用する薬 (2) 皮膚障害、視覚障害、性・生殖機能障害、更年期障害、生殖腺機能障害 [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
宇佐美(7)	血管外漏出、ステロイド、重篤な薬物有害反応の自覚症状、正しく投与するために必要な投与量計算 [準備・課題]学修内容の予習・復習をする(3h)																																												
時間外での学習	授業で採り上げる薬は時間の関係で限られていますので、医薬品事典などで補いましょう。 必要な専門用語や重要な薬品名を覚えてください。必要な専門用語や重要な薬品名を覚えてください。																																												
受講学生へのメッセージ	薬理学という授業ですが、実際は薬物治療学に近いです。どういう病気にどんな薬が使われているか、投与するときにどのような注意が必要かなどを解説していきます。薬は取っ付きにくく、難しいというイメージがあるかもしれません、分かりやすく話をしますので、興味をもってもらえることを望みます。オフィスアワーは、教室にて講義修了後行います。																																												

生化学	看護学科	1年前期				
	1単位		講義	15時間		
[教員]：佐々 敏						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	人体を構成する基本物質(糖質・タンパク質・脂質・核酸・ビタミン類・ホルモン類・無機質など)について学ぶ。また、これらの物質が、生体内でどのように代謝(合成と分解)され、機能を果たしているかを学習し、代謝異常により生じる代謝性疾患の原因について理解する。					
授業方法	毎回のテーマにおける重要な医学・生化学用語を説明する。それに関する内容の理解を深めるために、小テストやレポート課題を与える。					
到達目標	1. [知識・理解] 看護師に必要な基礎知識を理解する。 (◎) 2. [思考・判断・表現] コミュニケーション能力を養う。 (△) 3. [技能] 課題に対する現状や問題点などの指摘や説明ができる。 (△) 4. [関心・意欲・態度] 自分の理解を高めるために、独自のサブノートを作成する。 (○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	70	-	-	-	70
	レポート	-	5	5	5	15
	自己評価	-	5	-	-	5
	受講態度	-	-	-	10	10
	合 計	70	10	5	15	100
成績評価と割合	筆記試験(定期試験、豆テスト) 70%、レポート 15%、学習成果の自己評価 5%、受講態度 10% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『臨床生化学』メディカ出版					
参考書・教材	必要な資料は配布します。					
内容					授業内容・目標	
実施回						
1	代謝とは [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
2	生命維持に必要な栄養素の構造と性質 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
3	糖質代謝 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
4	脂質代謝 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
5	タンパク質とアミノ酸の代謝 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
6	核酸・ヌクレオチドの代謝 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
7	遺伝情報、先天性代謝異常 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
8	代謝のまとめ [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。 (3h)					
時間外での学習	自分流のオリジナルなサブノートを作成しましょう。 質問等があれば、研究室へどうぞ。					
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は看護師の基礎となる教科を楽しく学べるように努力しますので、君たちも頑張りましょう。 オフィスアワーは毎週月曜日の16：20から17：30です。					

公衆衛生学	看護学科	1年前期				
	1単位		講義 15時間			
[教員]：金山 三恵子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	公衆衛生は保健・医療従事者にとっての様々な活動の基盤となります。本授業では公衆衛生の概念とそのしくみ、集団を対象とする健康問題のとらえ方とその対応のための方法などについて解説します。そのうえで人々の健康増進、疾病予防の実践例を学習し、人々の健康についての理解を深めていきます。					
授業方法	テキスト及び配布資料を中心に講義をします。					
到達目標	1. [知識・理解]	公衆衛生の概念とそのしくみ、人々の健康問題について基本的な理解ができる。 (◎)				
	2. [思考・判断・表現]	環境問題や公衆衛生の実践例をとおして、日々の生活と健康問題の関連、さらに問題解決の方法を考えることができる。 (○)				
	3. [関心・意欲・態度]	問題解決に関心を持ち、グループディスカッションやレポート課題に積極的に取り組むことができる。 (△)				
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	試験	70	-	-	-	70
	発表・レポート	-	20	-	-	20
	受講態度	-	-	-	10	10
	合 計	70	20	-	10	100
成績評価と割合	試験(終了時試験・小テスト) 70%、発表・レポート 20%、受講態度 10% の合計100%で評価します。					
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『健康支援と社会保障② 公衆衛生』メディカ出版					
参考書・教材	教材は必要時、配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	公衆衛生について考える (学習の進め方のガイダンスを含む) 1. 公衆衛生とは何か 2. 公衆衛生改善の歩み 3. 健康とは何か 4. 予防の概念 5. 公衆衛生の歴史 [課題]授業で示す課題をまとめる(2h)					
2	公衆衛生のしくみと政策 1. 日本の公衆衛生の特徴および国や地方自治体の役割 2. 保健所・市町村保健センターの機能 3. 公衆衛生専門職の役割とその変化 4. 民間や住民組織の役割 [準備・課題]保健所と保健センターの違いを地域保健法を活用して区別できるようにまとめる(3h)					
3	公衆衛生の理念と概念 1. ヘルスプロモーションの考え方 2. 経済的観点での公衆衛生の役割 3. ソーシャルキャピタル [準備・課題]授業内容を復習し、授業で示す課題をまとめる(3h)					
4	公衆衛生のものさし 1. 集団の見方と健康指標 2. 疾病研究の方法 3. リスクファクター 4. スクリーニング 5. 因果関係 [準備・課題]授業内容を復習し、授業で示す課題をまとめる(3h)					
5	統計資料から見た日本の健康問題 (講義・課題学習) 1. 統計情報の収集とその見方 2. 各種統計から健康問題を探索しその解決方法を考える (グループディスカッション) [準備・課題]統計資料を読み、グループで発表資料を作成する(3~5h)					
6	統計資料から見た日本の健康問題 (グループ発表とまとめ) [準備・課題]グループで発表できるように準備し、他からの意見も含めて、発表した内容をまとめる(3~5h)					
7	公衆衛生活動のプロセス 1. ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ、P D C Aのサイクル 2. 家庭訪問、健康教育、健康相談の意義と活用 [準備・課題]授業内容を復習し、授業で示す課題をまとめる(3h)					
8	公衆衛生の実践例とまとめ 1. 感染症 2. 難病 3. 学校保健 4. 産業保健 [準備・課題]公衆衛生学の全体的なまとめを振り返り学習する(3h)					
時間外での学習	公衆衛生の学習範囲は幅広く、授業時間の学習だけでは十分ではありません。毎回の授業の予習・復習を行ってください。特に提示した[準備・課題]は、必ずノート整理をして学習しましょう。					
受講学生へのメッセージ	教科書を熟読して授業に臨んでください。自らの健康がどのように守られているか考えてみてください。 オフィスアワー：質問等は、教室で講義後に来てください。					

看護学概論	看護学科	1年前期			
	2単位	講義	30時間		
[教員]：馬場 貞子・松原 薫					
[関連する資格・履修制限等]：					
授業内容	看護学全般に共通する基本的な概念・理念、および看護実践そのものの仕組みや機能、看護者の倫理等について学びます。 また、看護職者の社会的使命や役割、保健医療システムと看護活動の実践を理解できるよう解説します。				
授業方法	講義およびグループワーク				
到達目標	1. [知識・理解] 看護の目的・対象・機能について理解する。 2. [知識・理解] 看護の対象としての人間をさまざまな視点でとらえるとともに、人権・生命の尊厳を理解する。 3. [知識・理解] 他職種との連携の中での看護の役割と、看護を取り巻く制度や体制を理解する。 4. [思考・判断・表現] グループワークでの課題調査や資料作成を通して、自己の役割と他者との協調を理解する。 5. [関心・意欲・態度] グループ学習等にも意欲的に参加できる。				
観点別評価	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	60	-	-	60
	ミニレポート	10	-	-	10
	課題レポート	-	10	-	10
	グループワーク	-	10	-	10
	総合判断	-	-	10	10
	合 計	70	20	-	100
成績評価と割合	筆記試験 60%、ミニレポート(毎回) 10%、課題レポート(2回) 10%、グループワーク10%、総合判断10% の合計100%で評価します。				
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『基礎看護学(1)：看護学概論』メディカ出版				
参考書・教材	フローレンス・ナイチンゲール『看護覚え書き』医学書院 ヴァージニア・ヘンダーソン『看護の基本になるもの 新装版』日本看護協会出版会				
内容					
実施回	授業内容・目標				
1	序：授業のガイダンス、看護とは、健康とは何か [準備・課題]講義の進め方を理解し、予習復習に活用する。看護、健康についてレポートにまとめる。 自分の考える看護について事前に整理しておく。(1h)				
2	社会の変化と看護の概念：看護の対象、看護の歴史 [準備・課題]社会の変化と共に看護対象の変化・健康の捉え方の変遷を理解する。 配布資料や講義内容を整理し、まとめる。(1h)				
3	看護の変遷：看護の歴史、ナイチンゲールと近代看護 [準備・課題]近代看護への歩みとナイチンゲールの看護・功績について整理する。 教科書・配布資料・講義内容を振り返り、上記課題を整理してまとめる。(1h)				
4	看護理念と看護理論：看護の歴史の中で活躍した理論家と看護モデル① [準備・課題]指定された理論家についてグループで調べ話し合う。 事前に指定された理論家について調べる。グループワークでの学びを整理し、課題をまとめる。(1h)				
5	看護理念と看護理論：看護の歴史の中で活躍した理論家と看護モデル② [準備・課題]グループで発表資料作成する。グループワークでの学びを整理し、課題をまとめる。(1h)				
6	看護理念と看護理論：各グループの発表 [準備・課題]各グループの発表から各理論家と看護モデルについて整理する。 グループ発表と資料、講義内容を参考に課題をまとめる。(2h)				
7	看護者の自立と看護倫理：国際看護師協会・日本看護協会の倫理綱領① [準備・課題]倫理綱領を熟読し整理する。 教科書での該当箇所を予習して臨む。(0.5h) 講義内容を振り返り、整理する。(0.5h)				
8	看護者の自立と看護倫理：国際看護師協会・日本看護協会の倫理綱領② [準備・課題]倫理綱領を看護師・看護学生としての行動に関連付けて整理する。 教科書での該当箇所を予習して臨む。(0.5h) 講義内容を振り返り、整理する。(0.5h)				
9	看護関係法規と看護者の責任：保健師助産師看護師法、医療法等 [準備・課題]看護実践に関係する基本法規についてまとめる。(1h)				
10	看護職の養成制度とキャリア開発：継続教育、専門看護師、認定看護師等 [準備・課題]看護師への教育と看護師の卒後教育、これから看護師像についてイメージする。 講義を振り返り、課題を整理しまとめる。(1h)				
11	看護の活動領域：各種看護活動の場とその特性、期待される役割 [準備・課題]医療施設、福祉施設、地域における各種施設等の特殊性を整理しまとめる。 配布資料・講義内容を振り返り、課題を整理しまとめる。(1h)				
12	看護管理と看護者の責務 [準備・課題]看護職の行う看護管理とは何かを理解し、伴う看護職者の業務責任について理解する。 配布資料・講義内容を振り返り、課題を整理しまとめる。(1h)				
13	看護提供の仕組み(1)：病院を支える専門職（病院見学） [準備・課題]病院見学を通して看護職と他専門職との連携を理解する。(1h)				
14	看護提供の仕組み(2)：看護職者と医療チーム、そこでの看護対象者（病院見学） [準備・課題]病院見学を通してチーム医療の中の看護の役割と看護活動をまとめる。(2h)				
15	ビデオ鑑賞と全体のまとめ：病院で活躍する看護師の24時間、15回講義のまとめ [準備・課題]受講を振り返り看護概論の要点をまとめる。 配布資料・講義内容を振り返り、課題を整理しまとめる。(1h)				
時間外での学習	看護に関する図書（看護理論集など）を熟読し、自分なりの看護を表現できるように努力してください。				
受講学生へのメッセージ	予習・復習をして授業に参加してください。自分の考えや疑問は後に残さず積極的に発言したり質問したりしてください。参加型で楽しい授業にしましょう。 オフィスアワーを活用してください(日程は別途お知らせします)。				

基礎看護技術論	看護学科	1年前期																																											
	2単位		講義 30時間																																										
[教員] : 馬場 貞子・松原 薫																																													
[関連する資格・履修制限等] :																																													
授業内容	共通基本技術としてのコミュニケーション技術、感染予防の技術について、また看護を展開する上で基礎となる思考プロセスとしての看護過程について学びます。																																												
授業方法	テキストおよび配布資料を活用した講義を行います。またグループワークや演習を行います。																																												
到達目標	1. [知識・理解] 看護職としてのコミュニケーションの意義と様々な手法について説明できる。 2. [知識・理解] 感染予防の意義と方法について説明できる。 3. [知識・理解] 看護過程と看護診断の意義について説明できる。 4. [思考・判断・表現] 対象や場面に応じたコミュニケーションをとるための自己の課題を述べることができる。 5. [関心・意欲・態度] 看護を学ぶ者としてルール・規範を守り、主体的に学習することができる。																																												
観点別評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>知識・理解</th><th>思考・判断・表現</th><th>技能</th><th>関心・意欲・態度</th><th>合計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>筆記試験</td><td>70</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>70</td></tr> <tr> <td>レポート課題</td><td>-</td><td>20</td><td>-</td><td>-</td><td>20</td></tr> <tr> <td>受講態度</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>10</td><td>10</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>70</td><td>20</td><td>-</td><td>10</td><td>100</td></tr> </tbody> </table>				知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計	筆記試験	70	-	-	-	70	レポート課題	-	20	-	-	20	受講態度	-	-	-	10	10													合 計	70	20	-	10	100
	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計																																								
筆記試験	70	-	-	-	70																																								
レポート課題	-	20	-	-	20																																								
受講態度	-	-	-	10	10																																								
合 計	70	20	-	10	100																																								
成績評価と割合	筆記試験 70%、レポート課題 20%、受講態度 10% の合計100%で評価します。																																												
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『基礎看護学(3) : 基礎看護技術』メディカ出版																																												
参考書・教材	有田清子他『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③基礎看護技術 II』医学書院, 2016. 竹尾恵子監修『看護技術プラクティス 第3版』学研, 2014. 他																																												
実施回	授業内容・目標																																												
1	感染予防 (講義) 感染および感染予防の基礎知識 [課題] 感染の発生および予防についてまとめる。 (1h)																																												
2	感染予防 (講義) 感染予防のプロセス [課題] 標準予防策についてまとめる。 (1h)																																												
3	感染予防 (演習) 手指 衛生・滅菌手袋の装着 [課題] 手指 衛生・滅菌手袋の装着について繰り返し練習する。 (2h)																																												
4	感染予防 (演習) 滅菌物の取り扱い [課題] 滅菌物の取り扱いについて練習する。 (1h)																																												
5	コミュニケーションの基礎① (講義・演習) コミュニケーションの意義と目的・構造 [課題] コミュニケーションの基礎についてまとめる。 (1h)																																												
6	コミュニケーションの基礎② (講義) 関係性構築のためのコミュニケーション、コミュニケーションに必要な能力・態度 [課題] レポート課題「自分を知ろう」 (2h)																																												
7	看護場面での効果的なコミュニケーション① (講義) 情報収集と説明、アサートイブネス、共感 [課題] インタビューガイドを作成する。 (1h)																																												
8	看護場面でのコミュニケーション② (講義) 対人関係について [課題] 年代の違う方へのインタビューの実施 (2h)																																												
9	コミュニケーションの障害のある方への対応①(講義・演習) 視力障害のある人・聴力障害のある人への対応 [課題] コミュニケーション障害のある人への対応についてまとめる。 (1h)																																												
10	コミュニケーションの障害のある方への対応②(講義・演習) 言語障害のある人・意識障害のある人・認知障害のある人への対応 [課題] コミュニケーション障害のある人への対応についてまとめる。 (1h)																																												
11	模擬患者とのコミュニケーション① (講義・演習) インタビュー・トレーニング、インタビュー・ガイドの作成 [課題] 模擬患者のインタビュー・ガイドの作成 (1h)																																												
12	模擬患者とのコミュニケーション② (演習) インタビュー・トレーニング [課題] 模擬患者とのコミュニケーションを振り返り、課題を明確にする。 (1h)																																												
13	模擬患者とのコミュニケーション③ (演習) インタビューの振り返り [課題] 模擬患者とのコミュニケーションを振り返り、課題を明確にする。 (1h)																																												
14	看護のコミュニケーションのまとめ 臨床事例でのコミュニケーション [課題] 看護にとってのコミュニケーションをまとめる。 (1h)																																												
15	看護過程 看護過程とは・看護診断とは [課題] 看護過程と看護診断についてまとめる。 (2h)																																												
時間外での学習	講義の前には必ずテキストの該当部分を読んでおいてください。また十分に復習して理解を深めてください。																																												
受講学生へのメッセージ	看護の基本技術を学習する科目であり、主体的・積極的に学習を進めてください。また、やむをえない場合を除いて欠席しないでください。 オフィスアワーを活用してください (日程は別途お知らせします)。																																												

生活支援技術論	看護学科		1年前期				
	2単位		演習	60時間			
[教員] : 栗原 美和・服部 直子							
[関連する資格・履修制限等] :							
授業内容	人間の健康生活を保持増進し、疾病の予防と回復に向けた日常生活援助を実践するための基礎的知識、技術を習得することを目標とします。環境の調整、清潔や排泄の介助等について、科学的根拠に基づき、かつ対象の人権尊重と安全・安楽に配慮しながら実践できるようになりますことを目指します。						
授業方法	講義と演習を組み合わせて行います。演習では学生同士で患者役を体験し、個人及びグループでの主体的学習を通して技術の習得を目指します。						
到達目標	1. [知識・理解] 根拠に基づいた看護技術の必要性を理解し、日常生活援助技術の基本を習得する。 (◎) 2. [思考・判断・表現] 対象の状態に合わせて必要な援助を選択し、その根拠について説明できる。 (△) 3. [技能] 安全・安楽に配慮して、根拠に基づいた援助技術が実施できる。 (○) 4. [関心・意欲・態度] 看護を学ぶ者としてルール・規範を守り、主体的に学習することができる。 (△)						
観点別評価			知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験		60	10	-	-	70
	実技試験		-	-	20	-	20
	レポート提出状況・受講態度		-	-	-	10	10
	合 計		60	10	20	10	100
成績評価と割合	筆記試験 70%、実技試験 20%、受講態度 10% の合計100%で評価を行う。						
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『基礎看護学(3) : 基礎看護技術』メディカ出版						
参考書・教材	有田清子 他『系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学③ 基礎看護技術II』医学書院, 2017. 竹尾恵子 監修『看護技術プラクティス 第3版』学研, 2015. 他						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1・2回	看護技術とは、療養環境の調整（講義） [課題] 専門用語について覚える。療養環境についてまとめる。 (2h)						
3回	ボディメカニクス、医療安全（講義） [課題] 医療事故を予防するための方法についてまとめる。 (1h)						
4回	実習室オリエンテーション、ボディメカニクス（演習） [課題] ボディメカニクスについて復習する。 (1h)						
5・7回	活動・運動・休息（講義） [課題] 活動・休息が体に与える影響についてまとめる。						
8・9回	ベッドメーキング（演習） [課題] 繰り返しベッドメーキングの練習をする。 (5h)						
10回	ポジショニング（演習） [課題] さまざまな体位の特徴についてまとめる。 (1h)						
11・12回	体位変換・移送（演習） [課題] 体位変換・移送の方法について繰り返し練習する。 (2h)						
13・14回	食事・栄養（講義） [課題] 摂食動作に問題がある患者の食事介助について手順を作成する。 (2h) 一週間食事バランスガイドの記入をする。						
15・16回	食事介助（演習） [課題] 摂食動作に問題がある患者の食事介助についてまとめる。 (1h)						
17・19回	清潔・衣生活（講義） [課題] 臥床患者の清拭・寝衣交換の方法について手順とポイントをまとめる。 (1h)						
20・21回	臥床患者の清拭・寝衣交換（演習） [課題] 臥床患者・座位の患者の清拭・寝衣交換について繰り返し練習する。 (5h)						
22回	清潔：洗髪・足浴（講義） [課題] 洗髪・足浴の方法について手順とポイントをまとめる。 (1h)						
23・24回	洗髪・足浴（演習） [課題] 様々な洗髪の方法について繰り返し練習する。 (2h)						
25・27回	排泄（講義） [課題] 紙おむつ着用の体験をしレポートを作成する。 (2h)						
28・29回	排泄介助・陰部洗浄（演習） [課題] 陰部洗浄について繰り返し練習する。 (2h)						
30回	臥床患者のリネン交換（演習） [課題] 臥床患者のリネン交換について繰り返し練習する。 (2h)						
時間外での学習	講義の前には必ずテキストの該当部分を読んでおいてください。演習前には必ず講義内容の復習をしてください。 演習後には空き時間を利用してセルフトレーニング室で、できるようになるまで繰り返し練習してください。						
受講学生へのメッセージ	看護の基本技術を学修する科目であり、主体的・積極的に学習を進めてください。また、やむをえない場合を除いて欠席しないでください。 オフィスアワーは毎週火曜日の16:20から17:30です。						

治療支援技術論		看護学科	1年後期																																																	
2単位		演習		60時間																																																
[教員]：服部 直子・馬場 貞子・栗原 美和																																																				
[関連する資格・履修制限等]：																																																				
授業内容	疾病の予防と回復に向けて実施される治療支援の技術について、基本的知識と手技を習得することを目標とします。バイタルサインの測定、体温や呼吸を整える技術、与薬や経管栄養法等について、科学的根拠に基づき、かつ対象の人権尊重と安全・安楽に配慮しながら実践できるようになることを目指します。																																																			
授業方法	講義と演習を組み合わせて行います。演習では学生同士で患者役を体験し、個人及びグループでの主体的学習を通して技術の習得を目指します。																																																			
到達目標	1. [知識・理解] 各援助技術の目的・必要性および基本手技について理解できる。 2. [知識・理解] 人体の構造と機能に基づいて援助の根拠を説明できる。 3. [思考・判断・表現] 対象の状態に合せて援助方法を選択するとともに、その根拠を説明できる。 4. [技能] 安全・安楽に配慮した援助技術を実施できる。 5. [関心・意欲・態度] 看護を学ぶ者としてルール・規範を守り、主体的に学習することができる。																																																			
観点別評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>知識・理解</th><th>思考・判断・表現</th><th>技能</th><th>関心・意欲・態度</th><th>合計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>筆記試験</td><td>50</td><td>20</td><td>-</td><td>-</td><td>70</td></tr> <tr> <td>実技試験</td><td>-</td><td>-</td><td>20</td><td>-</td><td>20</td></tr> <tr> <td>レポート提出状況・受講態度</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>10</td><td>10</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>50</td><td>20</td><td>20</td><td>10</td><td>100</td></tr> </tbody> </table>					知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計	筆記試験	50	20	-	-	70	実技試験	-	-	20	-	20	レポート提出状況・受講態度	-	-	-	10	10																			合 計	50	20	20	10	100
	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計																																															
筆記試験	50	20	-	-	70																																															
実技試験	-	-	20	-	20																																															
レポート提出状況・受講態度	-	-	-	10	10																																															
合 計	50	20	20	10	100																																															
成績評価と割合	筆記試験 70%、実技試験(2項目) 20%、レポート提出状況・受講態度 10% の合計100%で評価します。																																																			
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『基礎看護学(3)：基礎看護技術』メディカ出版																																																			
参考書・教材	有田清子 他『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』医学書院, 2017. 竹尾恵子 監修『看護技術プラクティス 第3版』学研, 2014. 他																																																			
内容																																																				
実施回	授業内容・目標																																																			
1・2回	バイタルサイン（講義） 【課題】バイタルサインの意義と基準値・異常値についてまとめる。 (2h)																																																			
3・4回	バイタルサインの測定（演習） 【課題】バイタルサインの測定を繰り返し練習する。 (6h)																																																			
5回	体温を整える技術、包帯法（講義）																																																			
6回	罨法、包帯法（演習） 【課題】罨法、包帯法について繰り返し練習する。 (2h)																																																			
7回	呼吸を整える技術（講義） 【課題】酸素療法・吸引の留意点、酸素ボンベの残圧計算について復習する。 (1h)																																																			
8・9回	酸素療法・吸引（演習）																																																			
10・12回	与薬①：与薬の基礎、様々な与薬法（講義） 【課題】様々な与薬法の特徴についてまとめる。 (2h)																																																			
13・14回	与薬②：注射（講義） 【課題】注射の部位・実施のポイントについてまとめる。 (2h)																																																			
15・16回	検査の看護（講義） 【課題】各検査の看護のポイントをまとめる。 (2h)																																																			
17・18回	皮下注射・筋肉内注射（演習） 【課題】撮影した動画により手順を復習する。 (2h)																																																			
19・20回	静脈内注射・採血（演習） 【課題】撮影した動画により手順を復習する。 (1h)																																																			
21回	栄養摂取の治療的援助（講義） 【課題】経管栄養法の留意点についてまとめる。 (1h)																																																			
22回	経管栄養法（演習）																																																			
23・24回	排泄：浣腸、摘便、導尿（講義） 【課題】浣腸、摘便、導尿の手技と留意点についてまとめる。 (1h)																																																			
25・26回	導尿（演習） 【課題】導尿を繰り返し練習する。 (2h)																																																			
27・28回	総合演習①：片麻痺のある患者の清潔・排泄の援助計画立案（演習；グループワーク） 【課題】患者の条件に応じた援助の計画を立案する。 (2h)																																																			
29・30回	総合演習②：片麻痺のある患者の清潔・排泄の援助実践（演習） 【課題】援助を振り返り計画を修正する。 (2h)																																																			
時間外での学習	講義の前には必ずテキストの該当部分を読んでおいてください。演習前には必ず講義内容の復習をしてください。 演習後には空き時間を利用してセルフトレーニング室で、できるようになるまで繰り返し練習してください。																																																			
受講学生へのメッセージ	看護の基本技術を学修する科目であり、主体的・積極的に学習を進めてください。また、やむをえない場合を除いて欠席しないでください。 オフィスアワー：毎週水曜日4・5限 319（服部）研究室																																																			

フィジカルアセスメント演習	看護学科		1年後期				
	1単位		演習	30時間			
[教員]：野綱 淳子・服部 直子・馬場 貞子・松原 薫・栗原 美和							
[関連する資格・履修制限等]：							
授業内容	看護の対象である人の身体機能をアセスメントするために必要な知識と技術を習得する。						
授業方法	講義と演習を組み合わせて進めます。演習では、学生同士で看護師・患者役を交替しながら実際に身体診察を行います。DVD等の視聴覚教材やフィジカルアセスメントモデル（シミュレーター）を活用して正常と異常の理解を深めます。						
到達目標	1. [知識・理解] フィジカルアセスメントの意義と方法を説明できる。 2. [知識・理解] 系統別フィジカルアセスメントに必要な解剖生理学の知識と手技について説明できる。 3. [思考・判断・表現] 系統的な観察の結果について正常・異常の説明ができる。 4. [技能] 健康な成人に対して、その機能を系統別に診察できる。 5. [関心・意欲・態度] 主体的に学習することができる。						
観点別評価			知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験		30	30	10	-	70
	課題レポート		-	20	-	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計		30	50	10	10	100
成績評価と割合	筆記試験 70%、課題レポート 20%、受講態度 10% の合計100%で評価します。						
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『基礎看護学(2)：ヘルスアセスメント』メディカ出版						
参考書・教材	山内豊明『フィジカルアセスメント ガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 第2版』医学書院, 2011						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	(講義) コースガイダンス、フィジカルアセスメントとは、症状のアセスメント [準備・課題] 学習した内容を復習する。(1h)						
2	(講義) フィジカルアセスメントの基本手技 [準備・課題] 学習した内容を復習する。(1h)						
3	(講義) 呼吸系：肺の位置、肋間の同定、横隔膜の同定、視診・触診・呼吸音の聴診 [準備・課題] 事前課題(2h)						
4	(演習) 呼吸系：視診、触診、打診、呼吸音の聴取 [準備・課題] 学習した内容を復習する。(1h)						
5	(講義) 循環系：血管の視診・触診、心音、心電図 [準備・課題] 事前課題(2h)						
6	(演習) 循環系：心音聴診、十二誘導心電図測定 [準備・課題] 演習内容について予習・復習する(1h)						
7	(講義) 消化系：口腔・咽頭の視診、腹部の視診、聴診、打診、触診 [準備・課題] 事前課題(2h)						
8	(演習) 消化系：口腔・咽頭の視診、腹部の視診、腸蠕動音の聴診、打診、触診 [準備・課題] 演習内容について予習・復習する。(1h)						
9	(講義) 運動系：歩行、関節可動域測定、徒手筋力測定 神経：小脳機能の評価、視覚・聴覚・触覚の評価 [準備・課題] 事前課題(2h)						
10	(演習) 運動系：歩行、関節可動域測定、徒手筋力測定 [準備・課題] 演習内容について復習する。(1h)						
11	(講義) 中枢神経系：意識状態、瞳孔および対光反射、高次脳機能、小脳機能 [準備・課題] 事前課題(2h)						
12	(演習) 中枢神経系：意識状態、瞳孔および対光反射、高次脳機能、小脳機能 [準備・課題] 演習内容について予習・復習する。(1h)						
13	(講義) 感覚系：視野・外眼筋運動、聴力、皮膚知覚 [準備・課題] 事前課題。(2h)						
14	(演習) 感覚系：視野・外眼筋運動、聴力、皮膚知覚 [準備・課題] 演習内容について予習・復習する。(1h)						
15	(講義) まとめ [準備・課題] 学習した内容について復習する。(1h)						
時間外での学習	・フィジカルアセスメントには解剖生理学および病理学、病態学の知識が必要です。復習して講義に臨みましょう。 ・演習前に資料等をよく読み、内容を把握した上で出席してください。 ・フィジカルアセスメント技術については、演習時間だけでは技術習得が困難なため、セルフトレーニング室を利用し確実に練習しておきましょう。						
受講学生へのメッセージ	人の身体のしくみや働きについて、自分自身についても興味・関心を持って学習しましょう。 オフィスアワー：金曜日3限 研究室106						

生活援助実習	看護学科		1年後期																																											
	1単位		実習	45時間																																										
〔教員〕：栄原 美和・服部 直子・馬場 貞子・松原 薫・野綱 淳子																																														
〔関連する資格・履修制限等〕：																																														
授業内容	医療施設の構造・機能や医療に従事する様々な職種を理解し、入院している患者の療養環境について学びます。また1年次に学修した知識と技術を基に、受け持ち患者の身体的・心理社会的背景を観察しながら、日常生活の援助を看護師とともに実施します。そして実施した援助の根拠、および効果を考察し、対象の状態に合わせた援助方法について学びます。																																													
授業方法	学外の医療施設で実習します。																																													
到達目標	1. [知識・理解] 対象をとりまく療養環境を理解できる。 (○) 2. [思考・判断・表現] 対象の状態を把握し、日常生活援助の必要性を理解できる。 (○) 3. [思考・判断・表現] 実践した援助の根拠と妥当性について振り返ることができる。 (○) 4. [思考・判断・表現] 実践を振り返り、対象の人権を尊重し人権擁護の立場に立った看護者の姿勢について考えることができる。 (○) 5. [技能] 対象および実習関係者と適切なコミュニケーションをとることができる。 (○) 6. [技能] 対象に必要な日常生活援助を看護師とともに実践できる。 (○) 7. [関心・意欲・態度] 決められた規則や時間を厳守し、記録物を提出および保管できる。 (○) 8. [関心・意欲・態度] カンファレンスに積極的に参加できる。 (○) 9. [関心・意欲・態度] 看護を学ぶ者として適切な態度で行動できる。 (○)																																													
観点別評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th><th>知識・理解</th><th>思考・判断・表現</th><th>技能</th><th>関心・意欲・態度</th><th>合計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>記録物</td><td>20</td><td>25</td><td>-</td><td>-</td><td>45</td></tr> <tr> <td>実践</td><td>-</td><td>-</td><td>30</td><td>-</td><td>30</td></tr> <tr> <td>実習態度</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>25</td><td>25</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>20</td><td>25</td><td>30</td><td>25</td><td>100</td></tr> </tbody> </table>					知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計	記録物	20	25	-	-	45	実践	-	-	30	-	30	実習態度	-	-	-	25	25													合 計	20	25	30	25	100
	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計																																									
記録物	20	25	-	-	45																																									
実践	-	-	30	-	30																																									
実習態度	-	-	-	25	25																																									
合 計	20	25	30	25	100																																									
成績評価と割合	記録物 45%、実践 30%、実習態度 25% の合計100%で評価します。 *実習記録およびカンファレンスでの発言、援助の実践状況および実習態度、面接により総合的に評価します。																																													
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『基礎看護学(3)：基礎看護技術』他 メディカ出版																																													
参考書・教材	必要時提示する。																																													
実施回	内容 授業内容・目標																																													
	1. 実習時間・期間 1年次後期 1週間 2. 内容 実習初日：各実習病院で病院の概要および医療関連職種の役割について説明を受け、病院施設設備の見学を行う。 2～4日目：1人の患者を受け持ち、臨地実習指導者や教員の指導のもとに実習する。 最終日：グループ内で学習成果について発表し、臨地実習指導者・教員から助言・指導をもらい、学びを深める。 3. 課題 毎日の実習の振り返りを行い、翌日の実習の準備をする。また、実習前に提示される課題に取り組む。 (各2～4時間) 詳細は実習オリエンテーションにおいて説明する。																																													
時間外での学習	実習はそれまでに学内で学修したことの総括の場であるため、実習に臨むにあたって既習の知識・技術とともに十分に復習して確実なものにしておいてください。																																													
受講学生へのメッセージ	実習の目標に到達できるように、臨地実習指導者や教員の助言・指導をもらいながら積極的に学習を進めてください。 感染等体調不良を起こすと受け持ち患者に迷惑をかけることになりますので、実習前から体調管理に十分注意してください。																																													

成人看護学概論		看護学科		1年後期																																																	
2単位		講義		30時間																																																	
[教員]：棚橋 千弥子																																																					
[関連する資格・履修制限等]：																																																					
授業内容	人間の成長発達課題における成人期の特質について、身体的・心理的・社会的側面から理解する。また成人期にある人々の健康保持のための援助方法や、健康破綻の原因・要因を理解することにより成人期の全体像を捉えていきます。それらを理解したうえで、様々な健康破綻の段階にある対象者に対する看護を看護師-患者関係を中心に学習していきます。さらに、成人看護を展開するための各理論等についても学習していきます。																																																				
授業方法	講義を中心として、一部グループ討議・発表を取り入れながら展開していきます。																																																				
到達目標	1. [知識・理解] 成人期にある人々の発達課題を説明でき、健康破綻の要因を説明できる。 (◎) 2. [思考・判断・表現] 健康破綻を来す可能性あるいは健康破綻をきたした対象者の援助の方法を説明できる。 (◎) 3. [関心・意欲・態度] 第一に成人期に関心を持ち、成人期の健康破綻について理解したうえで健康回復のための援助について、積極的に学修することができる。 (○)																																																				
観点別評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th><th>知識・理解</th><th>思考・判断・表現</th><th>技能</th><th>関心・意欲・態度</th><th>合計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>筆記試験</td><td>35</td><td>35</td><td>-</td><td>-</td><td>70</td></tr> <tr> <td>グループ討議</td><td>-</td><td>10</td><td>-</td><td>10</td><td>20</td></tr> <tr> <td>受講態度</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>10</td><td>10</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>合計</td><td>35</td><td>45</td><td>-</td><td>20</td><td>100</td></tr> </tbody> </table>						知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計	筆記試験	35	35	-	-	70	グループ討議	-	10	-	10	20	受講態度	-	-	-	10	10																			合計	35	45	-	20	100
	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計																																																
筆記試験	35	35	-	-	70																																																
グループ討議	-	10	-	10	20																																																
受講態度	-	-	-	10	10																																																
合計	35	45	-	20	100																																																
成績評価と割合	筆記試験 70%、グループ討議参加状況 20%、受講態度 10% の合計100%で評価します。																																																				
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『成人看護学(1)：成人看護学概論』メディカ出版																																																				
参考書・教材	必要資料については適宜配布します。																																																				
実施回	授業内容・目標																																																				
1	授業ガイダンス、成人看護学の対象となる範囲を理解する。 [準備]成人の定義についてまとめておく。 (1h)																																																				
2	成人各期の成長発達を理解する。 成人の家族および社会における役割を理解する。 (グループワーク) [課題]成人期の発達課題について整理しておく。 (1h)																																																				
3	成人の日常生活の共通性を理解する。 成人の生活スタイルの多様性を理解する。 [課題]テーマについて復習しまとめること。 (1h)																																																				
4	学習者としての成人の特徴を理解する。 エンパワメント・アプローチのプロセスについて理解する。 [準備]テーマについて事前学習しておくこと。 (1h)																																																				
5	生活習慣に関連する健康障害 [課題]学習内容を復習し、疾患との関連を理解しておく。 (1.5h)																																																				
6	成人各期の健康問題について理解する (青年期・壮年期) [課題]学習内容の復習しまとめておく。 (1h)																																																				
7	成人各期の健康問題について理解する (更年期・高齢期) 死の受容過程について理解する。 [準備]成人各期における死の受け止め方についてまとめておく。 (1h)																																																				
8	急激な破綻から回復を促す看護の概要を理解する。 [準備]急性期とは、どのような状況であるのか学習しておく。 (1h)																																																				
9	慢性的な揺らぎの再調整を促す看護の概要を理解する。 [準備]慢性的期とは、どのような状況であるのか学習しておく。 (1h)																																																				
10	障害がある人の生活とリハビリテーション [課題]障害があることによって起こり得る状況についてまとめておく。 (1.5h)																																																				
11	終末期医療の概念 終末期にある人の理解 終末期看護の機能・役割 [課題]学習内容を復習し、テーマについてまとめること。 (1.5h)																																																				
12	ストレスと健康障害について理解する。 ストレスコーピング、ストレスマネージメント 自己のストレスコーピングについて考える (グループワーク) [準備]テーマについて予習しておくこと。																																																				
13	セルフケア理論を用いた成人看護活動について理解する。 [準備]テーマについて予習しておくこと。 (1h)																																																				
14	危機理論を用いた危機介入の方法を理解する。 [準備]テーマについて予習しておくこと。 (1h)																																																				
15	まとめ 重要事項について再確認し整理・復習する。																																																				
時間外での学習	1コマ終了後には復習を行ってください。不明な点、理解困難な点は次の時間あるいはオフィスアワー等を利用して問題解決するように心がけてください。																																																				
受講学生へのメッセージ	本授業科目の学習には、「病態学」「看護学概論」等の理解が前提となります。学生はこれらの授業について積極的に復習を行っておきましょう。 オフィスアワー：別途お知らせします																																																				